



### 唐獅子

先日朝、ハンバーガーショップでの出来事であった。私の前には幼児を連れた若い母親がいた。彼女は品物を受け取って間もなく、再びカウンターに引き返ってきて「すみませーん、子供がミルクのストローを中に入れてしまつて…」と言いなから、片手に持っていた紙パックの牛乳を店員に差し出した。どうやら、長さが2段階に伸縮する細いストローを、子供が短いまま紙パックの中に差し込んでしまったようなのだ。さて、それに対応したのは若いアルバイトの女店員だった。その店員は、パックの牛乳を「警告する」と「わかりました、少々お待ちください」と言つて、新しい牛乳パックを持つてきて差し出したのだ。するとその母親の方は、「えっ? ああ、まだ飲んでないし…」と、困惑している様子である。しかし、店員の方は「大丈夫ですよ、交換いたしますから」と、何の躊躇もなく笑顔で対応しているのだ。

どうやら、こつしたこつたに對するマニユアルというものがあつて、この店員はそれに沿つてきつちの優秀に対応しているのだから。母親の方は、「いんとですか。」と怪訝な

### 飽食の日本・考

鳥光 宏

うに言いなから、持っていたストロー入りのパックを差し出した。すると、その店員は、笑顔を振りまきながら横に置いてあつたごみ箱にそのパックを放り込んだのである。そして、奥にいた正社員らしき男性に事後報告をし、それを受けた男性店員は「はい、わかりました」と返答して事は終わった。その後は、全その空気がベルトコンベヤーに乗って元の流れと等間隔で動きだしたように私には感じられた。

私も含めて、そこにいた誰か一人が、「新しいストローをもうらうだけでいいですよ」とか、「紙パックの端をハサミで切つて紙コップをいただけはいんですよ」などと言えは牛乳は捨てられずに済んだはずだ。しかし、誰もそれを言いたくない、マニユアル違反・お節介・面倒くさい……が美名な理由付けが渦を巻く。現代日本では妙なマニユアル化、飽食が、人々の思考を中断させ、戦後の貧困生活から這い上がつて来た日本の力強さを失わせてしまつてはいないだろうか。福張ろう日本」というスローガンがどうも絵空事にしか聞かえないのは私だけなのだろうか。

(講師・作家)